PRESS RELEASE

報道関係各位

アントレプレナーシップ論講座

4 月開催！スタンフォード MBA のベンチャー社長による 自分のキャリアを踏み出す一歩を見つける 90 分の無料オンラインセミナー

～福島原発の国際対応を経て、自身のできることに挑戦する姿勢を学ぶ～

アントレプレナーシップ論講座（代表：柴田英寿 以下アントレ）は株式会社アジャイルエナジーX（エックス）（代表取締役社長：立岩健二 以下、アジャイルエナジーX）の立岩社長を特別講師に迎え、4 月に「自分のキャリアを踏み出す一歩を見つける」をテーマに 90 分の無料オンラインセミナーを開催します。

アントレプレナーシップ論講座について

東大発の起業コミュニティ

アントレは 2002 年に東京大学工学系研究科の授業の 1 コマ講座として誕生し、21 年継続している日本で最大規模の起業コミュニティーです。350 名以上の卒業生を輩出し、約 150 社の起業のきっかけを創出してきました。2020 年からはオンラインで開催し、全国・全世界から誰でも参加できます。

2023 年のテーマ

2023 年の本講座（※1）は、「再生可能エネルギー」をテーマとして予定しています。そのため、再生可能エネルギーの有効活用を事業とするアジャイルエナジーX の立岩社長による無料オンラインセミナーにて、自身のこれまでのキャリアの歩みと取組を紹介いただきます。

セミナー特別講師　アジャイルエナジーX　立岩社長プロフィールとメッセージ

1996 年：京都大学工学研究科エネルギー応用工学専攻修了

1996 年～：東京電力株式会社入社。新型原子炉の安全設計等に従事

2004 年：スタンフォード大学 MBA 取得

2011 年～：福島第一原子力発電所事故対応に関する国際業務等に従事

2018 年～：エネルギー産業のイノベーションを通じて福島復興への責任を貫徹する方策を模索する中、分散コンピューティング技術を活用した革新的な事業を構想

2022 年：株式会社アジャイルエナジーX 設立

2023 年：環境省主催の環境スタートアップ大賞選定委員賞受賞

株式会社アジャイルエナジーX 社 web：https://agileenergyx.co.jp/

立岩社長よりメッセージ

エネルギーの業界に入り、3.11 の福島の国際対応など多くの経験をしてきました。これまでも、そしてこれからも自分なりにできることを挑戦していきたいです。今後さらに不確実性が増す時代において、自分が経験したことがヒントになり、セミナー受講者の方のキャリアやヒントになればと思いこの機会をいただきました。そして、日本のエネルギーに関心を持ってもらえると大変嬉しいです！

無料オンラインセミナーの概要

各回同様の内容を予定しております。

2023 年 4 月 05 日（水曜）20：00～ 21：30

2023 年 4 月 12 日（水曜）20：00～ 21：30

会場：オンライン開催（ZOOM）

参加費：無料

参加申し込みフォーム：右の QR コードからも申し込みできます

https://tinyurl.com/2qmw9krq

※1　アントレの本講座について

4 月の無料オンラインセミナーを受講いただいた中から、ご希望の方は 5 月より数週間わたり、アントレの本講座への参加が可能です。本講座では再生可能エネルギーをテーマとしつつ、普段の学生・社会人生活では関わる機会がない、様々なキャリアを持つ講師による授業を無料で受講できます。考えるだけではなく、ヒアリングや現物を見ることを通して、不確実な時代を生き残り、自分のキャリアをつくる一歩を踏み出します。

※本講座は無料

※オンライン受講可

対象者：大学生・院生・高専生・社会人・誰でも

会場：オンライン開催（ZOOM）

これまでのアントレに参加した人の声

・受講生をサポートする社会人の方たちが付いてくれて、親身なサポートを受けられました

・普通に過ごしていたら出会えなかった人たちと出会えました

・色んな観点を持った人たちに揉まれながら、今の自分との違いを知れました

・事業を起こされた方々との繋がりが生まれ、実地を通してビジネスの面白さを感じられました

【本講座への申込み・プレスリリースに関する問合せ先】

ENTREPRENEURSHIP アントレ

アントレプレナーシップ論講座　　代表：柴田

ＵＲＬ：https://www.openschooljapan.org/

E-mail　：pr@openschooljapan.org

アントレの概要と活動の様子

多様性のある仲間と一緒に学べます

チームで課題に取り組む

2022 年の課題は「岩牡蠣を若者に楽しんでもらうには？？」実際に、岩牡蠣を取り寄せました（写真左）岩牡蠣を受講生自ら調理（写真右）をして課題解決のヒントを模索しました。